

B滑走路が閉鎖！ 空港機能強化の根拠が崩壊

第3滑走路計画・A滑走路深夜運用の中止を！



欠航が相次ぎ成田空港の駐機所に並ぶ航空機 (4月10日)

●休業補償・感染防止策を

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う「緊急事態宣言」が全国に発令され、私たちの生活にかつてなく甚大な影響を及ぼしています。

安倍政権は東京オリンピック開催にこだわったために初動の対応が遅れ、いまだに医療機関にマスクを届けることも、十分な検査体制を整えることもできていません。これまでさんざん病院の民営化や規制緩和を推し進め、儲からない医療を切り捨ててきた結果であり、単なる自然災害ではなく政府による人災に他なりません。

自宅で犬と戯れ優雅にお茶を飲む安倍首相の姿は感染のリスクにおびえながらも働かざるを得ない私たちの実情からはあまりにもかけはなれています。布マスク2枚や10万円の支給だけでは生きていくことはできません。すべての働く人々への休業・失業への完全な補償と感染防止策の徹底を医療や介護現場で懸命に働いている労働者とともに求めていきましょう。

●国・NANAの無責任許すな

成田空港会社 (NANA) は、B滑走路

の閉鎖に続き、第1、第2ターミナルの一部閉鎖を発表しました。3月の訪日客は93%減。成田の発着回数は3割以下。全日空 (ANA) は政府に1・3兆円もの支援を要請しつつ、従業員2万2千人を一時帰休させ、空港内の店舗の約9割が時短営業や臨時休業となっています。

「空港機能強化で雇用が増える」と宣伝されてきましたが、今起きていることは地元住民はじめ空港関連で働く膨大な数の労働者の解雇・賃下げです。一切の元凶は国とNANAの野放図な空港拡張にあります。

4月14日、IMF (国際通貨基金) は世界経済見通しを世界大恐慌以来最悪のマイナス3%と発表しました。右肩上がりの経済成長を前提にした空港機能強化の根拠は崩壊しました。

しかし、NANAは機能強化をあくまで推進し、市東さんの農地強奪もあきらめてはいません。3月29日の全国集会は中止しましたが、私たちは今後も地域住民の皆さんと共に命と生活、農地を守り、国とNANAに対して断固として闘い続けます。

芝山町の7割が騒音下！

芝山町都市計画マスタープラン ＝住民叩き出し計画を許さない

芝山町は都市計画マスタープランを公表し、その概要について書かれたリーフレットの配布を行っています（右）。

「都市計画」とは「誰にとっても、安全・安心・快適な場所となるように、ルールや計画を定めて実現していくこと」とうそぶいていますが、その中身をみるとまったくのデタラメであることが分かります。

●空港のための「都市計画」

都市計画の基本理念の根幹は「空港との共生・共栄」であるとして、「成田空港の更なる機能強化によるまちづくり」を目指すとしています。

そもそも「更なる機能強化」の核心は、高谷川をはじめ膨大な自然と田畑を破壊し、200戸もの住民を追い出して建設する第3滑走路計画です。さらに、運用時間も深夜延長し、静穏時間はわずか4時間半。芝山町の約7割もの地域を騒音地獄に叩き込むものです。

この具体化のための整備計画が今回示されているマスタープランです。

●芝山町の3分の2を無人化

その中身を一口で言うと、3分の2の地域の住民を騒音と第3滑走路建設で叩き出しつつ、県道・成田松尾線（はにわ道）の西側の地域に住民を押し込め、県道の東側は基本的に無人化して



倉庫や工業団地などを誘致し、残った田畑については通い農業でやれという乱暴極まるものです。

小池地区や川津場地区、千代田地区を「拠点」と位置づけて再開発し、移転対象者や新規定住者を受け入れるとしています。その計画が仮にうまくいったとして2038年に人口が高々200人増えるという程度なのです。

表（おもて）面で明らかなように「機能強化」の前提は崩れています。空港のために住民の命と生活を犠牲にする「機能強化」も「都市計画」も必要ありません。共に怒りの声を上げましょう。